



コ・ノ・ホ・シ

兵庫県の新しいお米、 『コ・ノ・ホ・シ』が誕生しました。

高温に強い新品種の種子 — 未来の食卓を守る挑戦 —

なぜ新品種の開発が必要？

近年、夏の高温による品質低下（白濁粒や収量減少）が全国的な課題になっています。

その解決のために兵庫県では、約10年をかけて「高温に強いお米の新品種」を開発しました。

一粒でも混ざりが
ないよう、
徹底した除草管理

生育段階ごとの
きめ細かな観察

食用米以上に
厳格な基準で
選別・管理

農家さんはまさに

「未来の食卓のために、命のもとを育てる役割」を
担っています。

食べる前に — 「種子」を育てる大切な仕事

私たちが食べる前に、まず必要なのが「種子」です。

新品種を県内に広げるには、まず“種子を栽培する農家さん”
が育て、その種子が各地の農家に渡り、やっと食用のお米とし
て栽培されます。

この「種子栽培」には、特別な厳しい管理が求められます。

種子からつながる未来

開発（研究機関・県）

種子の栽培（専門の農家さん）

農家で食用米として栽培

私たちの食卓へ

一粒のお米が届くまでに、
こうした長い工程と努力が積み重なっています。

市川町種子生産組合でコ・ノ・ホ・シの種子をつくっています。

農家さんの声



食べるための
お米よりも、ずっと
神経を使います



厳しさの中にも、
使命感と誇りが
あります

これをしっかり
育てることで、
次の世代に安全で強い
お米が広がっていく



“種子をつなぐ”ことは、未来の食卓をつなぐこと。

「安心して食べられるお米」として

私たちの暮らしを支えています。

